Ｈ２９塩川小学校　校長室だより　30年2月16日(金)№13

さわやか



子ども一人一人とは！？



一人一人は、何を考えているのかな？

「全国学テの６年生の学力が高い。３年生の偏差値は、平均以上だ。」

これも、学力を測る一つの見方です。では、学力が低いという課題があったとき、このような見方でよいのでしょうか。

まさに、「森を見て木を見ず」です。誰に、どんな課題があるかが見えてきません。課題解決の手立ては、「全体」「平均」という傾向だけでなく、より「一人一人」に帰着し、対応していくことが大切です。

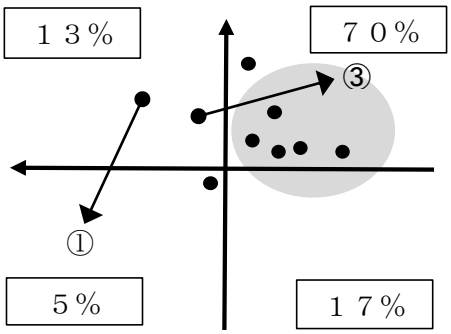
「学習は、個に成立する」の言葉通り、一人一人を見て評価し、その成長や課題を明らかにしなければ、本当の学力向上にはならないと考えます。

以下に、子ども一人一人に対応した見方の例を示します。

【成就値でみる変容】

		前年度成就値			
	算数科	ＯＡ	ＢＡ	ＵＡ	計
今年度成就値	ＯＡ	⑦	①③④⑤		10%
	ＢＡ	⑩	②⑧	⑥⑨⑪⑯⑳	20%
	ＵＡ		⑫		70%
	計	20%	70%	10%	100%

【ＱＵ結果で何を見るのか】



満足群７０％を、よい学級と捉えてよいのか？

ドットがどこに位置しているか？ドットがどこからどこに位置したか？を見ることが大切です。

アンダーラインの入ったそれぞれを、右横に見ていきます。例えば、今年ＯＡだった①③④⑤は、③昨年は、ＢＡだったため、この四人は、ワンランクアップしたという見方ができます。

このように見ると、⑥⑨⑪⑯⑳の入っているブロックなど３つのブロック（濃い網掛け）は、ランクアップしている子ども達といえます。しかも、クラス全体の８割がランクアップしています。

薄い網掛けの３つのブロックは、ランクダウンしている子ども達を示しています。

このクラスは、偏差値では、５０を切っているクラスだとします。

果たしてこのクラスは、学力が向上したと言えるでしょうか？　→　Ｙｅｓ　・　Ｎｏ

【正答率で見る変容】

個別	A	B	C	D	E	F	G	H	I
前年度	50	60	90	70	80	80	80	60	60
今年度	60	50	90	80	70	80	90	80	70

全体	平均点
前年度	70
今年度	74

前後	90	80	70	60	50	40
90	C	G				
80		F	D	H		
70		E		I		
60			下がった		A	伸びた
50				B		
40						

個別で表記したものと、全体で表記した２つの表から、それぞれどんな成果が言えますか？

全体で見た表からは、昨年度より４点高くなり、学力が向上したという成果が見えます。個別で見た表からは、課題も見えてきます。課題が見えると対策も見えてきます。そうすると、個に応じた指導が可能になります。

全体で見ることも大切ですが、真の課題解決、学力向上は「一人一人」へ対応することが重要です。